

# 平成29年度小松島市事務事業評価シート

<b>■事業の位置づけ（基本事項）</b>				<b>整理番号</b>	5 - 4 - 1
<b>事務事業名</b>	葬斎場管理運営費			<b>担当課係</b>	環境衛生センター
<b>総合計画上の位置付け</b>	<b>政策</b>	① 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり		<b>記入担当者</b>	
	<b>基本目標</b>	2. 快適な暮らしづくり		<b>内線等</b>	
	<b>施策</b>	2-1 快適な生活・都市基盤の整備		<b>E-mail</b>	
	<b>基本方針</b>	2-1-5 生活関連施設の整備			
<b>事業の実施主体</b>	市（委託・補助事業含む）			<b>事業区分</b>	経常事業
<b>事業予算費目</b>	<b>款</b>	4	衛生費	<b>項</b>	1 保健衛生費
	<b>目</b>	4	葬斎場費	<b>事業</b>	2 葬斎場管理運営事業
<b>開始年度</b>	昭和 46	<b>年度</b>	根拠法令・要綱等	小松島市葬斎場条例	

<b>事業の対象</b>	(誰の、何のために事業を実施するのか) 市民・定住町村住民及び市外住民のご遺体を火葬する。
<b>事業の目的</b> (意図)	(事業実施によってどういう状態にしたいのか) 尊厳を守りながら、公衆衛生その他公共の福祉の見地から支障なく、ご遺体を火葬する。
<b>事業の内容</b> (内容・手法等)	(どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか) 火葬予約の受付、火葬許可証の確認、火葬料金の受領、火葬の実施、火葬済みの証印、分骨の受付と実施、施設の維持管理、残骨灰処理業務委託の実施。
<b>事業の背景</b> (経緯等)	(事業開始の背景やこれまでの経緯) 葬斎場周辺地元住民の合意のもと、小松島市葬斎場条例に則り、昭和46年から地方自治体の責務として事業を行っている。

## ■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名			指標の説明				指標化できない成果
	火葬数（目標値を設定できないため例年を参考とする。）			大人、小人及び手術用肢体の年間火葬数				
	単位	H28	H29	H30	H31	目標年度 目標値		
体	目標	590	620	620	620		平成29年7月より新施設が稼働し、定住町村からの使用が増えている。 ※故人のご遺体を火葬する業務であるため達成度は100%とする。	
	実績	602	648					
	達成度	100.0%	100.0%					
活動実績・参考となる指標	指標名	単位	H28	H29	H30	H31	指標の説明	
	市内	体	計画	500	500	500	500	
			実績	530	508			
	市外	体	計画	80	110	110	110	
			実績	64	136			
	その他（手術用肢体）	体	計画	10	10	10	10	
			実績	8	4			
	合計	体	計画	590	620	620	620	
			実績	602	648			

## ■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

全体コスト（円）	関連事業費	28年度決算		29年度決算		29年度予算		30年度予算	
A	財源内訳	直接事業費	3,954,043	28,125,565	30,362,000	36,769,000			
		国県支出金							
		地方債							
		利用者負担	3,954,043	28,125,565					
	一般財源								
	B	人件費 ①×②	10,901,897	6,096,512					
職員平均人件費①		7,787,069	8,128,682						
従事した割合②/人		1.40	0.75						
A + B		14,855,940	34,222,077						
単位コスト	活動指標の説明		事業費/火葬件数	事業費/火葬件数	備考				
	活動指標 1 単位当たりコスト		24,678	52,812	平成28年4月1日現在 人口39,358人 平成29年4月1日現在 人口38,817人				
	市民一人あたりのコスト		377	882					

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺状況等や今後の予測) 火葬業務について、大規模な災害や新型インフルエンザ等が発生した場合の適切な対応、及び高齢化社会の進展に伴う火葬件数の増加等、市民のニーズに応える運営が望まれる。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 故人を偲び人生の終えんを飾るにふさわしい、遺族の心情に配慮した対応が求められている。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	市民のご遺体を火葬する重要な事業である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	業務の特殊性から、市がその役割を担う必要がある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	指定管理と業務委託により、効率的に運営されている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	即時対応できるよう、施設の整備及び業務態勢を整えておく必要がある。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	火葬業務を安定的、継続的に行うことにより市民サービスの向上に質している。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	経費を抑えつつ、現状を維持し管理を行っていく。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る		80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する		60 ~ 79 点		
2		3 改善・効率化し継続		40 ~ 59 点	65	市民の社会的営みにとって重要な事業であることから、経費削減に努めながら継続する。
		4 終期設定し終了		20 ~ 39 点		
		5 完了・休止・廃止		19 点 以下		

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】
経費を抑えた施設の運営や維持管理に努める。

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る		判定説明
		2 現状のまま継続する		
2		3 改善・効率化し継続		待望の新施設が稼働したので、経費削減に努めながら運営を継続する。
		4 終期設定し終了		
		5 完了・休止・廃止		